

かさまいなり

笠間稲荷門前通り商店街

(笠間稲荷門前通り商店街協同組合、大町公園通り商店会)

茨城県笠間市

「かさまち考」の取組と「笠間朱色」効果で、 空き店舗解消・来客数増加



取組の背景

周辺環境の変化に対応し、 年中賑わう商店街へ

笠間稲荷門前通り商店街は、生活雑貨、衣類（呉服店）、飲食店、土産物等を扱う店舗で構成され、代々家族経営で営まれてきた。古くから市内の中心商店街として地元住民に親しまれる一方、観光客向けの飲食店や土産物店も繁盛してきた歴史がある。平成以降は、郊外型大型店舗の進出等により、空き店舗の増加、廃業後の駐車場への転換が目立ってきている。

都内から約100kmと近く、常磐自動車、北関東自動車道の整備により、近年は首都圏から日帰り圏の観光地となってきた。また、平成23年東日本大震災の影響により、宿泊業が衰退していることから、来街者の滞在時間が著しく減少している。

笠間稲荷神社の参拝（1月）、ひまつり（笠間焼陶器市）・つつじまつり（5月）、菊まつり（11月）等大きな催事の時期は賑わうが、時期による来街者数のばらつきが非常に大きい商店街である。

笠間観光の中核を担う商店街として、年間を通して賑わいのある商店街づくりが望まれている。

取組の内容

シンボルカラー導入による 一貫した街づくりの取組み

石畳舗装とする道路整備（ハード整備）の方針策定後は、稲荷神社の雰囲気を感じさせる通りとするため、シンボルカラー「笠間朱色」を基調とした景観づくり、商店街のルールづくり（街並みづくりガイドライン）、空き店舗対策、地元住民の来訪も拡大させるイベント等に取組んでいる。

「笠間朱色」の活用推進については、当初参加者を募り、公共スペースのベンチや看板等の塗装作業から始め、その後、店舗外装の塗装希望を募り、塗装作業（笠間朱色塗り隊）を実施した。今では、各店が外壁塗装や改修を行う際に笠間朱色を使用するほか、のれんやのぼり旗への活用、公共整備による信号柱や道路案内看

板への活用等徐々に景観統一が進んできている。

「街並みづくりガイドライン」については、沿道に建築する建物の高さや用途の制限、笠間朱色の積極的な活用について、平成29年6月に都市計画法による地区計画の決定及び笠間市の条例として制定されるに至った。

「空き店舗対策」については、沿道の空き物件所有者への貸出しの意思確認、賃貸料や条件等の情報収集を行い、ホームページに空き店舗情報を掲載した。情報の「見える化」により、その後の新規出店という大きな成果につながっている。

同商店街は、古くから笠間稲荷神社の参拝客をはじめとする観光客が訪れるまちとして形成されてきており、商店街関係者の多くは稲荷神社の恩恵と捉えている。稲荷神社の参道をイメージさせる石畳舗装の整備や稲荷神社の拝殿や鳥居と同じ色を景観色として活用することは、稲荷神社を含む地域一帯がシンボル化することにもなるため、商店街関係者はもとより市民や来街者にも賛同が得られている取組と言える。

また、シンボルカラーを設定したことは、まちづくり当事者の商店街関係者にとって目に見える共通の目標となっており、今後も街並みづくりをはじめとする活性化の展開が期待できる。



石畳の笠間稲荷門前通り



笠間朱色塗り隊

取組の成果

「かさまち考」の取組効果で
新規出店とにぎわい向上

商店会エリアを包括した組織「笠間のまちと通りのこれからをみんなで考える会（通称：かさまち考）」の取組により、商店街全体の付加価値が向上し、2016、2017年度の2ヶ年で、空き店舗への新規出店が7店舗あった。内訳は、カフェ等の飲食店が3店舗、雑貨等の物販が2店舗、八百屋1店舗、美容室1店舗。このうち、洋菓子店（シュークリーム専門店）、アジア雑貨店、八百屋、美容室等、新業態も加わり、若い世代の来訪者が増えてきている。また、7店舗の店主は30～50代と比較的若く、まちづくりへの参画意欲やSNSによる同世代への発信力もあるため、かさまち考の中心メンバーとしても活躍している。

今後も、老舗店舗の後継者と若い創業者が協力してまちづくりに取組んでいくことで、商店街全体に良い相乗効果が生まれ、商店街のにぎわいと付加価値の向上につなげていく。

実施体制

当初道路整備方針の住民意見を集約するためのワークショップの会として設立した「かさまち考」が、現在は景観づくり活動や活性化イベント等、ワークショップでの提案を委員会において具体的に事業化し、商店会と協働して事業を実施している。委員会は、商店の後継者や新規開業者等、30～40代の商店関係者を中心に15名（商店主、地域おこし協力隊、市民活動団体関係者）で運営され、毎月打合せを実施している。情報発信は、SNS及び笠間市の広報紙等を活用している。また、かさまち考会員は、ワークショップ参加登録者90名（商店街店主、従業員、近隣住民、大学生、等）により構成。事務局は、笠間市まちづくり推進課（2019年3月まで）が担当。

キーパーソンからのコメント

笠間朱色のまちづくり

観光地笠間の特色を出すために商店街や市民の皆さんと話し合った結果、笠間稲荷神社の拝殿の色をシンボルカラーにして広めていこうとなりました。自分たちで長椅子、看板等を塗ることから始め、景観が笠間朱色に染まっていく面白さが出てきました。これからも各自がアイディアを出し合い、来街するお客様が笠間に来た雰囲気を感じてくれる演出を心懸け、笠間朱色で染まる街を目指してしていきたいです。

来る時はゲスト、帰りはファンに

お客様は笠間を楽しみに訪れます。私たち商店主はコミュニケーションがとても重要であり基本と考えています。会話ひとつ、サービスひとつ、何気ないことを大切に、記憶に残るような観光地に行きたいと思っています。そして、お客様が帰るときには笠間が好きになる、いい街だねと言ってもらえるような温かい心でお出迎えして笑顔の絶えない街づくりを目指していきたいです。



笠間稲荷門前通り商店街協同組合
理事長 沼田 雄一郎（右）

大町公園通り商店街
会長 安田 満（左）

商店街の
概要

笠間稲荷門前通りは、市内の中心商業地であり、笠間稲荷神社に面する通り（約460m）で、参拝客を含め、笠間市の観光（観光客数年間約360万人）の中核を担う地区でもある。しかし、近年、宿泊業衰退、空き店舗増加、駐車場への転換が目立ってきている。持続的な賑わい創出を目的として、道路景観整備（地場産みかげ石の舗装）を実施。整備を進める際、商店主や住民の意見を集約し整備方針を策定するため2012年度に「笠間稲荷門前通り整備推進協議会」が設立。住民意見を集約する会議として、3つの商店会エリア（うち1つが解散、現在は2商店会）を包括した組織「笠間のまちと通りのこれからをみんなで考える会（通称：かさまち考）」が発足した。

- 所在地 茨城県笠間市笠間
- 人口 約7.5万人（笠間市）
- 電話／ 0296-72-0139
- FAX／ 0296-72-0139

- URL <https://kasamachikou.wixsite.com/home>
- 会員数 68名
- 店舗数 60店舗（小売業36店、飲食業14店、サービス業8店、金融業2店）

- 商店街の類型 観光型
- 主な客層 国内観光客、家族連れ（親子）／50歳代、60歳代